

# マリンレジャーの事故防げ！

竹 富 町

## ダイビング業者ら訓練 海保と合同で遭難者救助

【西表】竹富町ダイビング組合（國井健二組合長）と琉球水難救済会西表上原救難所（大島佐喜子所長）、海上保安庁が合同で23日竹富町西表でマリンレジャー事故対策訓練を行った。西表島カヌー組合、西表シュノーケリング評議会のメンバーも含め、約60人が参加した。午前は上原多目的集会所で、過去の事故事例などの講習会。午後は中野沖で石垣海上保安部の巡視艇「やえつき」も参加して洋上訓練を行った。



マリンレジャー事故対策訓練に参加した竹富町ダイビング組合や西表島カヌー組合などのメンバーら＝23日、西表上原

テレネット網の海難遭難者捜索用の発信機を使った実証実験では、子機を持ったダイバーとカヌー乗者が漂流したという想定で発信機で捜索。発見にやや時間を要したが天候や波高、時刻などにかかわらず使用できることを確認した。海面上から遭難者をつり上げる「ダウンウォッシュ

体感訓練」も実施。ダイビングチームうなりさきの青井油寛さんは「すごい風圧でマスクがずれそうになった。想像以上だった」と話していた。

海面漂流者揚収訓練では、機動救難士が漂流者を引き揚げる方法を実演した後、参加者が2人1組で引き揚げを練習した。

國井組合長は「今年もシーズン前に走りある訓練ができてよかった。今後も毎年継続して安全に注意していきたい」と話した。（曾根田谷子西部通信員）